

社説

iki shinpo

11日から 夏の交通安全県民運動

県交通安全推進 県民協議会主催の 夏の交通安全県民 運動が11日から、 県下一斉に実施さ れる。

今回の県民運動の 期間中は、①高齢者 の交通事故防止②飲 酒運転の根絶③全 ての座席のシートベル トとチャイルドシー

トの正しい着用の徹底の 3項目を運動の重点に掲げ、 各自治体は、各々、各々、 交通安全協会、関係各機 関、団体が一体となり、広 啓発パレードやキャンペーン などを実施され、市民に 交通ルールの遵守、マナー アップが訴えられる。

郷ノ浦町内で先日、横道か ら出てきた車が本線に進入す る際、そんなにスピードは出 いていなかったものの、大きく 膨らんで曲がり、道路の中央 ラインを越えてきそうなる状 況でこちらに向かって走ってき た。すれ違いざまに相手の様

子が目に入ってきた。高齢者 でひどく動揺しているように 見えた。

もう少し考えた位置に停 車してくれば、もっと楽 に通行できるのにと思わせ る携帯電話利用者に立ち話 しをするドライバーたち、 あまりにゆっくりと車を走 らせるドライバー、ウイン カーで合図を出さずに曲 がったり、信号無視、騒音 をまき散らしながら走るバ イクや車、たばこや弁当の パッケージ、空き缶のポイ 捨てなど、もう一度、教習 所へ戻ってマナー、ルール について、学び直す方が良 いのでは—と考えるドライ バーに出くわすことも、い

まだに度々ある。

これはドライバーだけで はなく、すぐそばの横断歩 道を渡らずに、交通量を気 にしていないかのように横 断したり、歩きながらゴミ を捨てる人など、児童から 高齢者まで、マナーアップ やルールへの意識の再確認 が望まれているように見え る市民もいる。

以前に比べると、少しづ つではあるが交通安全への 意識は高まってきているよ うに感じているが、交通安 全は、ごく当たり前の社会 のルール。安全で快適な生 活環境、社会づくりには欠 けのない要素である。今さらで

そ。 全交通事故の原因の約8 割がわき見・ぼんやり運転 で、今、防止運動が展開さ れている。疲労や暑さも運 転する際の集中力を低下さ せる。そうした事態の原因 となる過労運転にも注意し て、この夏を無事故で過ご そう。

「社会を明るくする運 動」は、全ての国民が犯罪 や非行の防止と、犯罪をし た人や非行のある少年の 更生について理解を深め、 それぞれの立場において 力を合わせ、犯罪や非行の ない安全で安心な地域社 会を築こうとする全国的 な運動です。

この運動は、昭和24年、 戦後の荒廃した社会の中 であって大きな社会問題と なっていた少年の非行に心 を痛め、更生保護制度の思 想に共鳴した地域住民の有 志によって開催された銀座 フェアに始まったもので あり、地域住民によって自 発的に生まれた活動が原点 となっています。

最近の犯罪情勢を見ます と、刑法犯の認知 件数は平成15年以 降連続で減少して いるものの依然と して高い水準にあ り、さらには、生 活基盤がないため に再犯をしてしま う者や高齢犯罪者 の増加など、新た な課題が生じてい ます。犯罪や非行 のない安全で安心 な地域社会の実現 は多くの国民の願 いです。そのため

には、成長過程でつまづ いてしまった青少年を地域 が温かく見守り、育成して いくとともに、社会復帰に 様々な困難を抱える者の生 活基盤を地域の中に確保す ることが重要となってきま す。これには、何よりもそ れぞれの地域に住んでお られる方々自身の、地域に 対する思いと積極的な参 加、まさしく「地域のチカ ラ」が不可欠となります。

昨年は、東日本大震災に よってわが国は甚大な被 害を受け復興の途上にあ りますが、そのような中 で地域の絆の大切さが改め て見直された年でもあり ました。本運動が62回目を 迎える本年も、地域に根ざ した活動を更に推進し、多 くの方々の積極的な参加 を得て、犯罪や非行を抑止 する地域の力を育て、犯罪 をした人や非行のある少 年の立ち直りを支え、安全 で安心して暮らせる地域 社会づくりを進めていき たいと考えております。

地方公共団体を代表され る皆様方におかれまして は、「社会を明るくする運 動」の社会的意義を改めて 御理解いただき、創意や工 夫に溢れた諸活動がより多 く、地域住民の方々の理解 と参加を得て活発に行われ ますよう、御支援と御協力 をお願いいたします。

細菌性とウイルス性で 発生時期に違いが！

ここ数年、冬場に発生するノロウイルスによる食中毒が目立って多くなってきており、平成21年は1~2月、12月に集中していましたが、平成17年までは6~8月までの間に食中毒事件の約半数の患者が発生していましたが、過去5年間の平均を見ると夏だけに集中する傾向はなくなったため、1年を通して注意が必要です。ウイルス性の食中毒は人から人へ感染し、1事件あたりの患者数も多めなので、特に注意が必要です。

□問い合わせ先：岐保健所・TEL0920-47-0260

子どもたちの元気なプレー輝く 市内の10チームが出場

第2回「幼児サッカーフェスティバル」

「幼児サッカーフェスティバル」が30日、芦辺町、ダイエー横、芝生広場で開かれ、市内の保育園や幼稚園から10チーム、78人が出場して開かれ、梅雨の蒸し暑さを吹き飛ばすような元気いっぱいプレーが輝いた。

当日は前日までの降雨による悪天候が心配されたものの、梅雨の晴れ間が広がる好天のもと開催された。ゲームはA・B2コートに分かれ、10分ハーフ、6人制で行われ、子どもたちの好プレーに、保護者らの歓声が響いた。

ゴールを決めた芦辺保育園の山本章介ちゃん(5

つ)は「ゴールうれしかった。とっても楽しい」、ゴールキーパーでファイナルプレーを連発した渡良良保育所・主藤悠ちゃん(5つ)は「ゴールキーパー楽しかった」などと、二人とも元気に話してくれた。

郷ノ浦町老人 スポーツ大会

郷ノ浦町老連の第31回「郷ノ浦町老人スポーツ大会」が7日午前9時から午後2時半まで、同町、大谷体育館で開かれる。

子どもたちの元気なプレー輝く 市内の10チームが出場

第2回「幼児サッカーフェスティバル」

「幼児サッカーフェスティバル」が30日、芦辺町、ダイエー横、芝生広場で開かれ、市内の保育園や幼稚園から10チーム、78人が出場して開かれ、梅雨の蒸し暑さを吹き飛ばすような元気いっぱいプレーが輝いた。

当日は前日までの降雨による悪天候が心配されたものの、梅雨の晴れ間が広がる好天のもと開催された。ゲームはA・B2コートに分かれ、10分ハーフ、6人制で行われ、子どもたちの好プレーに、保護者らの歓声が響いた。

ゴールを決めた芦辺保育園の山本章介ちゃん(5



元気いっぱいにボールを追う子どもたち

郷ノ浦町老人 スポーツ大会

郷ノ浦町老連の第31回「郷ノ浦町老人スポーツ大会」が7日午前9時から午後2時半まで、同町、大谷体育館で開かれる。



Copyright © 2012 Ikishinpo. All rights reserved.